

R&D センター、「CEATEC2026」で Wi-Fi 8 実証成果を公開 AI による次世代ネットワーク運用の取り組みも紹介

JCOM 株式会社(J:COM、本社:東京都港区、代表取締役社長:岩木 陽一)は、2026 年 10 月 13 日(火)から 16 日(金)まで幕張メッセで開催されるデジタルイノベーションの総合展「CEATEC2026」に初出展します。本展示では、R&D センターが進める次世代の通信技術 Wi-Fi 8 実証実験の成果と AI による次世代ネットワーク運用の取り組みについて紹介します。

J:COM は、2030 年に目指す姿として「暮らしのうれしいと地域のゆたかさを進化させるパートナーへ。」を掲げています。R&D センターでは 2030 年に目指す姿の実現に向けて、次世代の放送・通信技術や AI などの先端技術の研究開発を推進しています。研究開発の成果を生かし、お客さまの暮らしや地域社会の課題解決に役立つサービスや運用への実装を目指しています。

出展ブースでは、Wi-Fi 8 の実証結果や Wi-Fi 6・7 との通信比較展示に加え、AI エージェントによる障害検知から復旧までを再現したデモンストレーション映像を公開します。

本展示を通じて、R&D センターが生活者視点で推進する研究開発のビジョンと、サービスや運用への実装を見据えた具体的な検証内容、将来の実装イメージを紹介します。ぜひお立ち寄りください。

<展示の見どころ>※予定

①次世代無線通信規格 Wi-Fi 8 実証実験の成果内容

宅内 Wi-Fi 環境のさらなる品質向上に向け、2026 年 7 月より次世代無線通信規格 Wi-Fi 8 の実証実験を実施しています。ブースでは、宅内を想定した環境で行った実証結果を公開します。Wi-Fi 6、Wi-Fi 7、Wi-Fi 8 の通信比較を通じて、複数端末接続時や混雑環境での通信特性を紹介します。

Wi-Fi 8 による、混雑・干渉環境での通信品質向上

周辺の通信環境や端末の利用状況に応じて通信を調整し、安定性と応答性の向上をめざします。



Wi-Fi 8により、混雑・干渉環境における安定した通信と応答性の向上をめざします。

※ 本図はWi-Fi 8の機能を分かりやすく示したイメージです。

②AI と人が連携する次世代ネットワーク運用

AI エージェントが障害検知から原因分析、復旧対応の一部を担い、人と連携して迅速な障害対応と運用負荷軽減を目指す次世代のネットワーク運用を検証しています。ブースでは、AI による自律的な障害対応の流れを再現した映像を公開し、将来のネットワーク運用の実装イメージを紹介します。

AIエージェントによる障害対応フロー（検知～復旧）

検知から復旧までをAIエージェントが自動対応、**重要判断のみ人が承認**（Human-in-the-Loop）



③サービス事業者ならではの研究開発アプローチ

これまで地域に根差した放送・通信サービスを提供してきた知見や事業基盤を生かし、研究開発から実装までを見据えて取り組む R&D センターの取り組みを、事例や研究テーマとともに紹介します。

■「CEATEC2026」出展概要

会期	2026 年 10 月 13 日（火）～2026 年 10 月 16 日（金）
会場	幕張メッセ
展示エリア	展示ホール 4（ブース番号：4H226） Next Generation PARK（ネクストジェネレーションパーク）
入場料	無料（事前来場登録制）
来場登録	公式ホームページ（ https://www.ceatec.com/ja/ ）をご確認の上、登録をお願いします。
内容	・ブース展示 ・P ステージ「出展者ピッチ」への登壇 ＜登壇日＞ 10 月 14 日（水）11 時 45 分～12 時 00 分

<J:COM R&D センターについて>

J:COM は、中長期的な研究・技術開発を通じてお客さまの暮らしを支え、地域社会の発展に貢献することを目的に 2026 年 4 月に R&D センターを設立しました。これまでの地域に根差した放送・通信サービスを提供してきた事業基盤を生かしながら、次世代の放送・通信技術やAIなどの先端技術の研究開発に取り組んでいます。

J:COM R&D センターは、将来のサービスや運用への実装を見据え、お客さまや地域社会に役立つ技術を創造し、よりよい未来を拓いていくことを目指します。

J:COM のサステナビリティ

J:COMでは、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。お客さまの豊かな「暮らし」を支える企業として、持続的な「地域社会」へ貢献を行い、その土台である「地球環境」と関わるすべての「人」を対象として、4つのマテリアリティと、さらに具体化した12のサブマテリアリティを2023年度に再設定しました。

<本事業と関連するマテリアリティ>

マテリアリティ：「心地よく心を動かすサービスの提供と企業価値の向上」 サブマテリアリティ：「お客さまに対する責任」



お客さまの生活にかかせない放送・通信などのサービスを安心安全にお使いいただくために、ネットワークの監視から設備の保守まで 24 時間 365 日体制で品質維持に努めています。また、お客さまを第一に考え、高い倫理観と社会的良識をもってパーソナルデータを厳密に管理しています。